平成 28 年度（2016 年度）自治体職員協力交流事業

協力交流研修員　研修報告書

2016 Local Government Officials Training Program in Japan

Trainee Reports

一般財団法人　自治体国際化協会

Council of Local Authorities for International Relations

は　じ　め　に

総務省及び一般財団法人自治体国際化協会では海外の自治体等の職員を受け入れることについて、財政面や受入実務面での支援を行うための「自治体職員協力交流事業」を展開しています。

平成８年度より創設された自治体職員協力交流事業も 21 年目を迎え、38 の国と地域から 1,115 名が本事業に研修員として参加されました。平成 28 年度（2016 年度）においては 12 カ国から 28 名の研修員が様々な分野で実り多い研修を行いました。

本事業は「ひとづくり」を通じた国際協力事業の１つでありますが、研修員の皆さんが日本の自治体の有するノウハウ・技術を習得され、帰国後、日本における研修の成果や経験をそれぞれの職場において大いに活かされ、また、自治体間の国際協力・交流の貴重な架け橋として活躍されていると伺っております。

そうした研修員の日本での奮闘ぶり、研修の成果を各方面の方々のご協力のもと、平成 28 年度も報告書として編集することができました。全事例でなく、国際交流や技術の習得に加えて、研修員本人のノウハウが自治体の行政施策の実施や問題の解決に貢献している事例等を中心に８事例を選定し、ダイジェスト版として掲載しております。

この報告書が研修員派遣国や今後研修員の受け入れを予定されている各自治体において活用していただけましたら幸いです。

最後に、研修員の受け入れにご尽力されました各受入自治体及び関係機関の皆様方に対して、心よりお礼を申し上げます。

一般財団法人自治体国際化協会
交流支援部　経済交流課

＝平成 28（2016）年度自治体職員協力交流事業スケジュール＝

2016 年

４月 15 日（金）　受入自治体担当者会議

東京研修

５月 15 日（日）　協力交流研修員の来日　　ルポール麹町泊
５月 16 日（月）　開会式
オリエンテーション
講話（総務省自治行政局国際室　植村哲室長）
受入自治体との面談　　ルポール麹町泊
５月 17 日（火）　日本語レベルチェック
都内視察：浅草寺、江戸東京博物館　　ルポール麹町泊
５月 18 日（水）　東京から滋賀（JIAM）へ移動

全国市町村国際文化研修所（JIAM）研修

５月 19 日（木）　開講式
日本語研修　授業：70 分×66 コマ（６月 15 日まで）
５月 21 日（土）　京都市内視察（伏見稲荷大社、金閣寺、清水寺等）
５月 25 日（水）　日本伝統文化講義（裏千家談支会　北野宗道特別参事）
６月　１日（水）　地方自治行財政講義（総務省自治行政局国際室　広冨将司係長）
６月　３日（金）　行政課題講義（立命館大学政策科学部　上子秋夫教授）
６月　４日（土）　滋賀県内視察（彦根城、近江日野商人館、日野町ホームビジット等）
６月 15 日（水）　成果発表会
６月 16 日（木）　閉講式
日本語ステップアップ研修開始
日本語研修　授業：70 分×37 コマ（６月 29 日まで）
６月 30 日（木）　日本語ステップアップ研修終了

専門研修

６月 17 日（金）　＜または＞
７月　１日（金）　受入自治体における専門研修開始

研修員の帰国

11 月中旬～５月にかけ順次帰国

平成28年度(2016年度) 自治体職員協力交流事業 協力交流研修員名簿

都道府県	市町村	氏名	性別	国名	所属団体	研修分野
北海道	旭川市	張 智娟	女	大韓民国	水原市	国際交流、一般行政
北海道	美唄市	ナティカ シリマニーラット	女	タイ王国	プーケット県タラーン郡チューンタレー地区	観光
岩手県	－	寧 鉑	女	中華人民共和国	遼寧省大連市	経済交流
岩手県	金ヶ崎町	王 晗	女	中華人民共和国	長春市	一般行政
千葉県	－	ファットバルザ アバズィ	女	コソボ共和国	国立プリシュティナ大学法学部キャリアセンター	一般行政
富山県	－	イマタ・ペドロゾ プリシラ・ミチエ	女	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州	教育(小学校)
福井県	福井市	李 有眞	女	大韓民国	水原市	一般行政
福井県	敦賀市	金 馹燮	男	大韓民国	江原道東海市	一般行政
山梨県	－	ロ・ブオノ・レイテ フラヴィア	女	ブラジル連邦共和国	ミナスジェライス州	一般行政
岐阜県	高山市	趙 振新	男	中華人民共和国	雲南省麗江市	脳外科等、地方行政
岐阜県	高山市	ローサス・カラサス ダビ・ハビエル	男	ペルー共和国	ウルバンバ郡	廃棄物処理行政等
静岡県	浜松市	楊 佳妮	女	中華人民共和国	瀋陽市	観光、環境
愛知県	豊橋市	ド・ナシメント アンドレイア・ヘジーナ	女	ブラジル連邦共和国	パラナ州パラナヴァイ市	教育
愛知県	豊橋市	バトゥアン ミラ	女	フィリピン共和国	タルラック市	多文化共生
滋賀県	東近江市	李 艶霞	女	中華人民共和国	湖南省常徳市	地方自治行政
京都府	－	鄧 育娉	女	中華人民共和国	陝西省	行政
鳥取県	－	キャンベル タマラ	女	ジャマイカ	ウェストモアランド県	都市計画行政
鳥取県	－	宋 華	男	中華人民共和国	吉林省	商工行政、国際行政
山口県	－	師 冉	女	中華人民共和国	山東省	医療(リハビリ分野)
高知県	－	ダグダグ タイロン・キダオ	男	フィリピン共和国	ベンゲット州	農業(造園)
高知県	高知市	プラジャント ガンディ・ウィジャヤ・チャハヨ	男	インドネシア共和国	スラバヤ市	一般行政
福岡県	北九州市	ワヒユ マヘンドラ	男	インドネシア共和国	スラバヤ市	環境保全行政
福岡県	北九州市	チャン・タイン タイ	男	ベトナム社会主義共和国	ハイフォン市	国際経済交流支援
福岡県	福岡市	ポーン テッ・ナイン	男	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市	上水道
福岡県	福岡市	テッ ルイン	男	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市	上水道
佐賀県	佐賀市	秦 川	男	中華人民共和国	連雲港市	一般行政
長崎県	長崎市	ヒルホースト ジェシカ	女	オランダ	ライデン市	文化財、経済、平和、観光 国際情勢
大分県	－	謝 芳	女	中華人民共和国	湖北省	観光、国際交流

平成28年度（2016年度）自治体職員協力交流事業（LGOTP）
報告書（ダイジェスト版）

目　　次

１．旭川市の研修を終えて････････････････････････････････････張　智娟（韓国水原市）　1

姉妹都市韓国水原市から交流公務員の張智娟さんを受け入れて･･････････（旭川市）　4

２．岩手県と大連市の友好の絆････････････････････････････寧　鉑（中国大連市）　6

岩手県と大連市の架け橋として･･････････････････････････････････････（岩手県）　9

３．日本での研修について＜英・日＞･･････ファットバルザ・アバズィ（コソボ共和国）　11

コソボ共和国から日本・千葉へ･･････････････････････････････････････（千葉県）　15

４．豊橋市で学んだこと････････マイラ・バトゥアン（フィリピン共和国タルラック市）　17

研修員とともに目指す多文化共生社会････････････････････････････････（豊橋市）　19

５．2016行政研修生研修報告書････････････････････････････李　艶霞（中国常徳市）　21

自治体職員協力交流事業研修員を受入れて･･････････････････････････（東近江市）　24

６．山口県で出会ったもの･･････････････････････････････････師　冉（中国山東省）　26

山東省からの研修員を引き受けて感じたこと･･････････････････････････（山口県）　30

７．高知市の発展と、市民対応のし方

･･････ガンディ・ウィジャヤ・チャハヨ・プラジャント（インドネシア共和国スラバヤ市）　32

自治体職員協力交流研修員の受け入れについて････････････････････････（高知市）　37

８．2016年LGOTP報告書･･････････････ジェシカ・ヒルホースト（オランダライデン市）　39

長崎市とライデン市の交流促進････････････････････････････････････（長崎市）　41

「　旭川市の研修を終えて　」

氏　　名 (Name)	張　智娟
出　身　国 (Country)	大韓民国
受入自治体 (Host Institution)	北海道　旭川市
研　修　先 (Training Institution)	旭川市役所都市交流課

1　本事業に応募した動機
(Reasons for applying for this program)

私は韓国以外の国の行政については何一つも知りませんでした。他の国の自治体はどのような行政をやっているのだろうと思いながら、韓国と一番近い国である日本の自治体の行政制度を全般的に研修したいと思うようになりました。

最近、自治体の行政には市民との協力がますます多く要求されておりますが、日本の活発な市民活動と行政がどのように繋がっているかを教えていただきたく、そして、受入団体である旭川市の独特な行政についても教えてもらいたく、本事業に応募することになりました。

2　研修の概要
(Summary of Training)

（１）土木事業所　流雪溝等

まず、旭川市は雪が多い地域で、雪対策に関する施設などを研修してきました。韓国の水原市は雪があまり降らない地域で、冬はいつも除雪だけでしたが、雪が多い地域に来てから、雪の処理には除雪以外にも「排雪」と言う作業が必要である事を初めて知りました。

〈除雪用の設備研修〉

「流雪溝」－　流雪溝とは雪山のない快適な道路環境を実現するための施設で、道路の両側の融雪溝に雪を投入して、川の水を利用してその雪を運ぶシステムです。この施設をうまく活用するためには、市民の協力が必ず必要ですが、冬の間、まちなかでの流雪溝を活用する市民の姿があり、行政と市民が協力する姿を見ることができました。

「雪の活用」－　雪を利用して、旭川市の冬まつりの時に使ったり、夏頃の建物の冷房にも活用したりすることが分かりました。

雪が多い町で、冬は雪が市民の生活を妨害することが多いと思いますが、この悪条件を生かして冬まつりを開いたり、エネルギーとして利用したり、この雪を市民の生活に役に立つよう色々工夫することが素晴らしいと思いました。

（２）旭川市動物愛護センター　『あにまある』

昔からあった施設でしたが、昔は嵐山という郊外にあって、動物保護としての役割を果たしてなかったそうです。その施設が本来の役割であるちゃんとした保護施設になるために、新しく、まちなかに移動して来ました。新しい所では、2016年に、4年連続犬の殺処分ゼロを達成するなど、動物愛護に力を入れています。

この施設では、保護室と治療室があって、飼い主が分からない犬と猫が怪我をしたとき、治療と飼い主を捜すまで保護が可能です。もし、飼い主がいない野良猫や野良犬の場合は、新しい飼い主を捜すまで保護され、その情報は旭川市役所のホームページにアップデートされます。

〈センターから譲渡された犬猫〉

それから、保護だけではなく、愛護の面として、市民に犬のしつけ方や飼い方を指導しますし、他にも、愛護と関係がある講習会も開催しています。

それに、保護されている動物とのふれあい体験ができ、動物愛護を市民の中に広げています。

去年の熊本地震で、家族とはぐれて現地で保護されていた猫を、旭川市が熊本県から引き取って市民に譲渡したという新聞記事を見てから、この施設に興味が湧き、研修を受けることとなりました。実際に行ってみたら、施設自体もとても良い施設でしたが、保護だけではなく、愛護センターの名にふさわしい業務の内容など、市民に命の大切さを伝えてくれる素晴らしい施設だと思いました。

（３）スポーツ課　視察及び通訳

スポーツ課の研修は体育館などのスポーツ施設の研修も含めて行われました。

「スポーツ施設」－　嵐山レクリエーション、大雪アリーナ、総合体育館、神居スキー場
ほとんどの施設の運営が指定管理運営の形になっていました。指定管理運営の方法の方がより専門的な管理も出来るし、民間企業と協業する形に見えて、良いと思いました。

「スポーツ課の業務」－　スポーツ計画やスポーツ振興をはじめ、各種大会、合宿の誘致、施設の管理などの業務がありました。面白かった所は、同じ体育

館でも、市民の健康管理に関するスポーツ施設などの理由で、他の部署(公園みどり課)が担当になった所でした。

スポーツ課の各種スポーツイベントについた説明では、多くの市民がスポーツに慣れるよう、いろいろ工夫していることが分かりました。特に、夏と冬のスポーツ体験会を通して、何かのスポーツを始めるきっかけになれれば、市民の健康にも良い影響を与えることが出来るし、活発な社会になれると思います。

〈冬向けのリンク場へ変身中〉

（４）神楽公民館

日本に来る前に、水原市の住民自治センターと似ている施設が「公民館」だと聞きました。この公民館は住民自治センターと何が違うかを考えながら研修を受けました。

まず、研修で行った神楽公民館は色々な部屋があって、その部屋を公民館に登録した学習サークルに貸して、市民が自ら学べる機会を提供していました。また、会議室が必要な地域の人たちに部屋を貸します。貸す事以外にも、色々なイベントを開いたり、自主文化事業を行ったりしています。

住民自治センターの場合は、市民に何かを学べる場所を提供する所である事は公民館と同じですが、その提供する内容のほとんどが講座の提供(自主文化事業)ですので、内容的には少々異なった所もありました。市民に新しい知識や、新しい文化を伝えられる自主文化事業もとても良い事業だと思っていますが、これからはどんどん市民が中心になって行われる事業が増えて、センター側はこの市民をサポートする形になって欲しいと思います。

３　帰国後の展望

(Plans upon returning to your home country)

今回の研修で得たことは旭川市公務員の市と市民に対する心と姿勢だと思います。職員の命の大切さを市民に伝えたい気持ちや活き活きするまちを作りたい気持ちなどを思いながら、研修前より良い心掛けと姿勢で、仕事に励みたいと思います。

姉妹都市韓国水原市から交流公務員の
張智娟さんを受け入れて

自 治 体 名　　北海道旭川市
研 修 員 名　　張智娟
出　身　国　　大韓民国
研 修 分 野　　行政
研 修 期 間　　11 か月
主 な 研 修 先　　都市交流課ほか

１．背景・目的

旭川市は、平成元年に韓国水原（スウォン）市と姉妹都市を提携し、代表団の相互派遣をはじめ、行政、スポーツ、文化、教育等様々な分野で活発な交流を継続している。

両市の職員相互派遣研修は、平成６年度から１５年度まで実施後、一時中断を経て、平成２４年度に再開、平成２５年度からは両市の友好交流や地域活性化の一層の促進を図り、両市の交流の架け橋となる人材を育成することを目的に自治体職員協力交流事業を活用しているところである。

今年度は、水原市から張智娟さんを受け入れて研修事業を実施した。

２．研修概要

韓国文化紹介・・市内小中学校へ訪問し国際理解教室、旭川市市民への韓国料理教室、韓国文化の紹介（韓国伝統の提灯作り）など
施設見学・・・・市内公園、流雪溝、農業センター、スポーツ施設、空港事務所、博物館等の視察など
各種体験・・・・旭川夏まつり舞踊パレードへの参加、外来種駆除体験など
行政制度・・・・福祉関係業務、旭川市動物愛護センターあにまある、支所、公民館など
通訳業務・・・・青少年交流事業、市民マラソン相互交流事業、バーサ-ロペットジャパン等での通訳業務

３．事業実施にあたって工夫、苦労したこと

旭川市に来た当初より日本語能力試験１級を持っており、日本での生活の経験があったため、コミュニケーションや生活に対し問題や不安等はそれほどなかった。翻訳通訳業務や学校等での発表といった日本語が堪能な研修員にしかできない内容の研修を準備し、本人の自信やキャリアアップにつながるような研修を心がけた。例としては以下のとおりである。

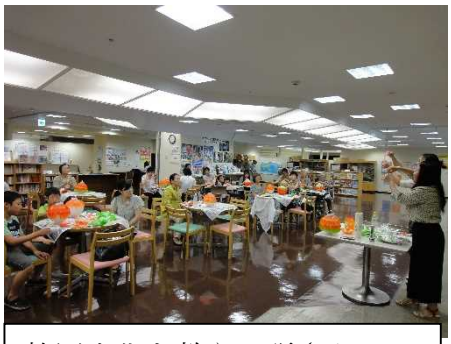
１点目は、通訳・翻訳業務の機会を多く提供したこと。本研修員は今後通訳としても活躍する人材であったことから、可能な限り通訳と翻訳をする場面を提供し、本人の自信につながるようにした。例えば、本市と姉妹都市である水原市から訪問

団が来た際には必ず通訳として同行させた。通訳の内容は多岐にわたり、観光ガイドのように旭川市の説明、旭川市の博物館での北海道のアイヌの人々の説明、市長表敬時にも同席するなど様々な機会で通訳をした。通訳は日本語と韓国語を常に交互に使用するため、日本語だけで会話できた本研修員も初めは苦労しているように感じたが、少しずつ慣れていき、非常に頼もしかった。

博物館で通訳をする張さん

２点目は、行政内容についての講義を多く行ったこと。今回の研修員は日本語も上手く日本と韓国の行政制度の違いを深く学ぶことができた。講義を受けた後、本研修員は日本と韓国の行政制度の違いを本市の担当者に説明をした。本研修員がよく言っていた日韓の行政制度の違いの内容としては、一つ目が日本は業務委託を上手く使っていること。例えば、旭川市では除雪や排雪は委託により民間事業者が行っているが、韓国水原市では市の職員が除雪を行っている。二つ目が日本では市民が自主的にサークル活動を行っていること。旭川市の公民館では市が場所を貸し出し、サークル団体が内容を決めるなど自発的に活動している。一方、水原市では公民館のような住民センターと呼ばれる施設の場合、職員がサークル活動を計画し、市民が参加するという方法で行政主体の活動を行っているとのこと。

３点目は、本市の市民との対話や韓国文化についての講座等の講師の機会を提供したこと。小学生に韓国の文化紹介を行った時は、とても盛り上がり児童も楽しく外国の文化を勉強することができた。また、国際交流の関連団体と協力して行事を手伝うことも多かった。韓国料理を教えたり、韓国の絵本を子ども達に読み聞かせたり、韓国のランタン（日本の提灯のようなもの）の作成方法を指導するなど、韓国の文化を旭川市民に伝えてくれた。旭川市民の国際理解が深まったと思われる。


韓国文化を教える張さん

４．成果・課題

本研修員は日本の行政制度も深く理解していたように感じた。韓国にはない町内会の制度や、今後韓国も高齢社会となる可能性が高いため高齢者のいきがい関連の施策、公民館や支所で行っている事業に対し高い関心を持っていた。本研修員が言うには日本と韓国の行政制度は似ているが、少し違うとのこと。韓国に帰国したら、日本のように自発的に市民活動が行えるような仕組みをつくりたいとも話していた。帰国後には本研修を水原市の行政に生かしてくれるものと感じている。

本研修では本研修員が旭川市民の国際理解にも寄与してくれ感謝している。課題としては本研修員の日本語能力が高かったため、実際に業務を手伝うといった研修も準備すべきであったと感じている。

本研修が本研修員にとって実りあるものになったことを祈っているし、行政制度について深く理解しているため、きっと本市で学んだことを水原市で生かして業務に取り組んでくれると市ものとして大きな期待をしている。

「岩手県と大連市の友好の絆」

氏　　名	寧　鉑
出　身　国	中華人民共和国
受入自治体	岩手県
研　修　先	商工労働観光部産業経済交流課

1　本事業に応募した動機

私は大学時代に日本に留学し、国際経済や異文化交流など、様々な知識を学びました。日本で身に付けた知識を生かすため、中国帰国後、地方公務員試験を受験し、日系企業との関連業務が多い大連市経済技術開発区税務局に合格しました。

地方税務の仕事は、国家税務局、税関、財政局、商工所、監事役会、企業など様々な機関・団体と緊密な関係があります。開発区は頻繁に海外企業誘致の業務があるため、日本の会計基準と中小企業の仕組みだけでなく、開発区の特別税務優遇政策も理解していないと難しいものがあります。そして、税金については、国家経済と国民生活に対する最も重要な施策の一つであり、地方公共団体の組織、事務、制度などを把握したうえで施策を行うべきであると考えました。

また、G20 により海外企業の進出と国際貿易が増加するため、統一的な基準と相互協力がさらに重要性を増しているといった状況もあり、日本での研修は、日本の産学官の立場や仕組みなどを深く理解し、相互親善関係を推進するチャンスであると考えました。そのため、人事局と所属する大連税務局に推薦され、自治体職員協力交流事業に参加できたことは大変光栄なことでした。岩手県の対中国経済交流事業等をしっかりと学び、日本社会と国際経済交流への理解を深め、双方の友好交流の発展に協力していきたいと考えております。

2　研修の概要

≪全体研修≫

（1）　講　義

ア　総務省国際室長講話
イ　地方自治行財政講義（総務省国際室）
ウ　日本伝統文化講義（裏千家談支会）
エ　行政課題講義　等

成果発表会（司会役）

（2）　視　察

浅草寺、伏見稲荷、清水寺、彦根城、日野商人館　等

（3）　日本語研修

ア　合計 70 分×64 コマ
イ　成果発表会（兼司会役）

≪専門研修≫

（１） 岩手県の対中経済交流事業に係る中国語翻訳通訳業務全般

（２） 中国からの訪問団の受入れに係る通訳・アテンド

ア　雲南省青少年訪問団対応
イ　フードエキスポ 2016 勉強会中国人留学生通訳
ウ　北京フィルムコミッション対応
エ　中国バイヤー対応（良運グループ、コフコ）
オ　大連商談会対応（中国・大連市）
カ　台湾チャーター便訪日団歓迎セレモニー通訳
キ　雲南省政府訪問団対応
ク　上海大可堂何作如氏一行対応
ケ　亜洲漁港対応　等

（３） 経済関係セミナー、会議出席

ア　県議会本会議傍聴
イ　ソウル事務所担当者会議（札幌市）
ウ　いわて食の商談会
エ　大連商談会説明会「大連紹介・出展者にアドバイス」発表
オ　富山日中経済協力会議（富山市）
カ　岩手県大連友好議員連盟総会
キ　岩手県・函館税関行政連絡会
ク　いわて海外展開支援コンソーシアム　等

（４） 行政、経済用務研修

ア　岩手県の農林水産物の海外輸出施策・航空施策・地方自治・男女共同参画施策・服務・コンプライアンス及び勤務条件・旅券発給業務
イ　会計事務基本研修
ウ　国費会計事務等研修
エ　地方分権改革セミナー
オ　県民経済計算研修、市町村民経済計算及び産業連関表に係る概要説明会
カ　決算検査報告事例研修　等

（５） 県内視察

ア　現地企業・学校
　トヨタ自動車東日本㈱、兼平製麺、北舘製麺、岩鋳、佐々長醸造、らら・いわて、大原中学校、不来方高校、岩手大学　等

製麺工場視察

イ　観光地・施設・名物

（ア） 施設等

　盛岡手づくり村、小岩井農場、大船渡津波伝承館、北山崎、えさし藤原の郷、遠野ふるさと村、カッパ淵、伝承園、龍泉洞、小袖海女センター、久慈琥珀博物館、岩手県林業技術センター、宮沢賢治記念館　等

（イ） 体　験

南部鉄器、秀衡塗、浄法寺塗、藍染、大野木工、久慈琥珀　等

ウ　文化・行事

つなぎ温泉名物料理開発コンテスト審査、盛岡さんさ踊り、台湾旅行博審査委員会、国際アイデアの会、日本語スピーチコンテスト、暑気払い、忘年会、新年会、厄払い　等

課内暑気払い

（６）　中国文化交流

中国語講義（12 回）、漢詩紹介（10 回）、中国ニュースや情報（４回）、大連のスタイル、春節行事紹介　等

３　帰国後の展望

岩手県での 11 か月間は、主に国際経済、観光業務に従事し、非常に中身の濃い研修が出来ました。県職員の皆様に優しく接していただき、楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。

中国は市場経済に移行してから、国際経済交流は非常に活発化しています。現在、国境を越えた経済活動が発展するとともに、新たな課題が出てきました。例えば、節税のため、企業は物品の販売又は価格によって開発された無形資産を移動して税金を回避する行為が増加し、低税率国の企業は高税率国の企業への販売価格を高く設定する、といった事例が生じています。これらの問題を解決するため、国際経済支援と協力に注力することは非常に重要な役割であり、中日両国にとって経済と文化の交流を推進していくことは最も重要なことであると思います。双方の経営と管理方式を学ぶことだけでなく、考え方とやり方をより一層深く理解し、また、日本の地方自治制度と中国政府機関制度の異なるところを充分考慮することが望ましいと考えます。今回の研修で様々な体験をさせていただき、新鮮かつ新たな視点・観点が頭の中に入り、大変有意義な時間を送ることができたように思います。

帰国後においては、岩手県で体験したことを生かし、その魅力を伝えていきたいと思います。そして、研修中に理解を深めた日本の自治体制度、歴史、文化等を中国の人々に伝え、岩手県と大連市の友好交流のために尽力していきたいと思います。また、日本の皆様に対しても、今まで私が実施してきた中国紹介や中国語講座などをブログにおいて引き続き発信し、これからも友好の堅い絆をますます深めるよう努めていきたいと思います。

最後になりましたが、貴重な研修機会を与えていただいた日本国総務省、CLAIR、岩手県庁（特に産業経済交流課、若者女性協働推進室）及び公益財団法人岩手県国際交流協会などの関係者の皆様に心より厚くお礼を申し上げます。お忙しい中、御指導と御援助をいただき、また、多くのことを教えていただき、本当にありがとうございました。皆様のお陰で、貴重な体験をさせていただいたことを嬉しくまた誇りに思います。帰国後、今回の研修を通じて身に付けた知識や経験などをうまく生かし、中国の発展に貢献するとともに、日本との橋渡し役として引き続き活躍していきたいと考えております。本当にありがとうございました。

「岩手県と大連市の架け橋として」

自 治 体 名	岩手県
研 修 員 名	寧　鉑（ニン　ボー）
出　身　国	中華人民共和国
研 修 分 野	経済交流
研 修 期 間	11 か月
主な研修先	商工労働観光部　産業経済交流課

1　背景・目的

岩手県と大連市は、地域間連携の強化を目的として、平成 19 年５月に「地域間連携の推進に関する協定」を締結し、同協定に基づく産業・文化・学術分野等多方面における交流や、職員の相互派遣交流事業（H20-H24)により、極めて良好な関係を構築している。

平成 25 年から新たに「岩手県による大連市職員の派遣研修の受入れに係る覚書」を締結し、大連市派遣職員の同県受入を継続している。

2　研修の概要

寧研修員の受入れに際しては、本県が重点的に取り組んでいる対中国経済交流事業を中心に経済交流分野について研修することを基本とした。

（１）　岩手県の対中経済交流事業に係る中国語翻訳通訳業務全般

（２）　中国からの訪問団の受入れに係る通訳・アテンド

ア　雲南省青少年訪問団対応
イ　フードエキスポ 2016 勉強会中国人留学生通訳
ウ　北京フィルムコミッション対応
エ　中国バイヤー対応（良運グループ、コフコ）
オ　大連商談会対応（中国・大連市）
カ　台湾チャーター便訪日団歓迎セレモニー通訳
キ　雲南省政府訪問団対応
ク　上海大可堂何作如氏一行対応
ケ　亜洲漁港対応　等

大連バイヤー（良運）対応

（３）　経済関係セミナー、会議出席

ア　県議会本会議傍聴
イ　ソウル事務所担当者会議（札幌市）
ウ　いわて食の商談会
エ　大連商談会説明会「大連紹介・出展者にアドバイス」発表
オ　富山日中経済協力会議（富山市）
カ　岩手県大連友好議員連盟総会
キ　岩手県・函館税関行政連絡会
ク　いわて海外展開支援コンソーシアム　等

（４）　行政、経済用務研修

ア　岩手県の農林水産物の海外輸出施策・航空施策・地方自治・男女共同参画施策・服務・コンプライアンス及び勤務条件・旅券発給業務

イ　会計事務基本研修

ウ　国費会計事務等研修

エ　地方分権改革セミナー

オ　県民経済計算研修、市町村民経済計算及び産業連関表に係る概要説明会

カ　決算検査報告事例研修　等

日中経済協力会議

（５）　県内視察

ア　現地企業・学校

トヨタ自動車東日本㈱、兼平製麺、北舘製麺、岩鋳、佐々長醸造、らら・いわて、大原中学校、不来方高校、岩手大学　等

イ　観光地・施設・名物

（ア）　施設等

盛岡手づくり村、小岩井農場、大船渡津波伝承館、北山崎、えさし藤原の郷、遠野ふるさと村、カッパ淵、伝承園、龍泉洞、小袖海女センター、久慈琥珀博物館、岩手県林業技術センター、宮沢賢治記念館　等

（イ）　体　験

南部鉄器、秀衡塗、浄法寺塗、藍染、大野木工、久慈琥珀　等

ウ　文化・行事

つなぎ温泉名物料理開発コンテスト審査、盛岡さんさ踊り、台湾旅行博審査委員会、国際アイデアの会、日本語スピーチコンテスト、暑気払い、忘年会、新年会、厄払い　等

（６）　中国文化交流

中国語講義（12 回）、漢詩紹介（10 回）、中国ニュースや情報（４回）、大連のスタイル、春節行事紹介　等

３　成果・課題

寧研修員については、中国からの要人来県時の通訳対応や本県の経済ミッションにおける資料翻訳等、対中事業のサポート役として尽力していただき、大連市との交流促進はもとより、雲南省政府や中国企業など多方面の対中人脈の強化に貢献した。また、本県と中国との交流について、庁内及び県民へＰＲする重要な役割を担った。日本語については、来日した時点でかなりの能力を持っていたが、今回の研修を経て、運用面でさらに上達をみている。

１年間という短い期間ではあったが、『中国とのネットワーク強化に資する人材育成と相互理解・親善友好関係の増進』という本研修事業の所期の目的は充分に達成されたものと認識している。本事業を通し海外の自治体職員とのネットワークを築くとともに、本県としての国際協力を果していきたい。今後益々盛んになる本県と大連市の交流の架け橋となっていただけることを期待している。

My Training in Japan

Name	Fatbardha ABAZI
Country	Republic of Kosovo
Host Institution	Chiba prefecture

1 The reason I applied to this program

Presentation about Kosova,
Chiba Prefectural Government

I applied for LGOTP program because I wanted to learn about Japanese working culture and receive professional training in Japan. Japan is a great example for Kosova. Kosova is now rebuilding after being completely devastated during the war. I wanted to learn about the Japanese working attitude so when I go back to my country I could apply that knowledge in my work place and future involvements.

During the training, I gave three presentations. The first presentation was about Kosova, the second about education in Kosova, and the last presentation was how I foresee Kosovian and Japanese future relations. This was a great opportunity to present my country to the Japanese people in the Chiba Prefectural Government. I hope Kosovian and Japanese relations will widen in the future, and that a Japanese Embassy will be opened in my country in the near future.

2 What I learned through this program

Matsudo Kokusai High School

During the first month in JIAM in Shiga Prefecture, I learned some Japanese language. There were often site visits in Tokyo and within the Chiba Prefectural Government which consisted of lectures and training sessions. From these, I learned a lot about public administration, how to lead big projects, decision making, policy making, and the skills required in leadership and diplomacy.

Separate training sessions were held by

almost every division of the Chiba Prefectural Government as well as the many institutions that I visited.

I visited educational institutions, Chiba Prefectural Schools, the Makuhari International School, Chiba University, the Chiba University Career Center, the Cultural Center, museums, the Ministry of Internal Affairs and Communications, the Ministry of Foreign Affairs, the National Diet of Japan House of Representatives, medical and welfare centers, the JETRO office, the Chiba Convention Bureau, factories in Chiba Prefecture etc.

I was trained by Chiba Prefectural Government Divisions such as: International Affairs Division, Administrative Reform Division, General Affairs Division, Municipalities Administration Division, Finance Division, Taxation Division, Policy Planning Division, Press and Public Relations Division, Land Development Policy Division, Construction and Real Estate Industry Division, Construction Management Division, Road Planning Division, Road Environment Division, River Improvement Division, River Environment Division, Urban Planning Division, Disaster Prevention and Crisis Management Department, Health and Welfare Department, Environmental Policy Division, Air Quality Division, Water Quality Division, Recycling Society Promotion Division, Environmental Research Center, Commerce, Industry and Labor Department Investment Promotion Division, Economic Policy Division, Gender Equality Division, Hospital Management Division, Agriculture, Forestry and Fisheries Department Agricultural Promotion Division, Agricultural Extension Division, Distribution and Marketing Division, Sewerage Division, Building Repairs Division, Housing Division, Public Enterprises Land Management Bureau, Waterworks Bureau, Board of Education, Education Policy Division, Cultural Education and Properties Division, Special Needs Education Division, Lifelong Learning Division etc.

3 Looking to the future

This training was very useful and informative for my future professional career. When I go back to my country I will apply the knowledge I got here in the best way possible, not only in my work place but also in the projects that I will be working on and leading in the future.

I hope the number of Kosova participants for this training will be increased in the future, so that more young people of Kosova will have the opportunity to learn and be trained by Japan and the Chiba Prefectural Government.

「日本での研修について」

名前	ファットバルザ・アバズィ
出身国	コソボ共和国
受入自治体	千葉県

1　志望動機

コソボについての講演会
於：千葉県庁

私が LGOTP に応募した理由は日本の職場風土を学びたかったからと、日本で専門研修を受けたかったからです。日本はコソボにとってすばらしいお手本です。私たちは、戦時中、完全に破壊された母国を立て直そうとしていて、私は日本の職場風土を学んで、帰国後、母国の職場や将来の仕事に日本で学んだ知識を役立てたいと思いました。

研修期間中に、講演会を３回しました。１回目はコソボについての講演会、２回目はコソボの教育制度についての講演会、そして最後はコソボと日本の将来の協力関係に関する私の意見について講演しました。これは、千葉県庁の日本人の皆さまに母国を紹介するすばらしい機会でした。

私は、コソボと日本の関係が将来広がることを望んでいます。そして、私の国に近い将来、日本大使館ができることを望んでいます。

2　研修の概要

千葉県立松戸国際高校

私はこの研修を通じ多くのことを学びました。滋賀県の JIAM での１カ月の研修で日本語を少し学びました。東京と千葉県庁での研修はずっと講義と現場視察があり、行政について、どのように大きなプロジェクトを指揮するか、政策決定、政策企画、リーダーシップと渉外に必要なスキルについて多くを学びました。

研修は、千葉県庁のほぼすべての課と私が視察した施設で実施されました。

私は教育機関、千葉県立学校、幕張インターナショナルスクール、千葉大学、千葉大学就職支援課、県文化会館、博物館、総務省、外務省、国会議事堂衆議院、医療機関、福祉機関、

JETRO 事務所、ちば国際コンベンションビューロー、 県内の工場等を視察させていただきました。

私は千葉県庁の各部署で研修を受けました。国際課、行政改革推進課、総務課、市町村課、財政課、税務課、政策企画課、報道広報課、県土整備政策課、建設・不動産業課、技術管理課、道路計画課、道路環境課、河川整備課、河川環境課、都市計画課、防災危機管理部、健康福祉部、環境政策課、大気保全課、水質保全課、循環型社会推進課、大気保全課、水質保全課、商工労働部　企業立地課、経済政策課、男女共同参画課、病院局経営管理課、農林水産部生産振興課、担い手支援課、流通販売課、下水道課、施設改修課、住宅課、企業土地管理局、水道局、教育庁 教育政策課、文化財課、特別支援教育課、生涯学習課等です。

3　今後の展望

この研修は私の将来のキャリアにとって非常に有益なものでした。帰国しましたら、ここで得た知識を職場のみならず、将来携わり、指揮するプロジェクトにも最高の方法で利用いたします。

将来このプログラムへのコソボ人参加者が増加し、より多くのコソボの若者が日本政府そして千葉県庁の研修を受け、学ぶ機会を得られることを祈ります。

「コソボ共和国から日本・千葉へ」

自 治 体 名　　千葉県
研 修 員 名　　ファットバルザ・アバズィ
出　身　国　　コソボ共和国
研 修 分 野　　一般行政
研 修 期 間　　６か月
主な研修先　　千葉県 各部局庁内各課･出先機関など

１　背景・目的

千葉県は、日本の玄関口である成田国際空港をはじめ、アジア有数のコンベンション施設である幕張メッセ、最先端科学の研究開発機能を持つかずさアカデミアパーク等を有する世界的に開かれた国際県である。

また、東京臨海部には集約化された産業拠点や商業・レジャー施設があり、少し足を伸ばせば豊かな自然やリゾート地が広がり、多くの外国人観光客が訪れている。各国の要人の方々も、空港利用に併せて県内の主要施設や県庁にお寄りいただくことが多い。

こうした中で、本県は、姉妹・友好都市交流にとどまらず様々な国々と経済・学術などの分野で幅広い交流を進めており、本年度は、平成２６年度に引き続き、自治体職員協力交流事業により、コソボ共和国から協力交流研修員１名を受け入れた。これは、コソボ共和国側から、国際空港を有し工業、物流、農業、観光など産業のバランスが取れた本県で、同国の行政職員を研修させたいとの希望を受けて実現したものである。

コソボは、2008 年に独立したばかりの国であり、国の行政システムを新たに構築するに当たって、千葉県がこれまでに蓄積してきた知識やスキルが、コソボの発展に役立つと考えた。

また、日ごろ接点の少ない欧州の行政職員との交流を通じて、外国の行政の現状や動向を学び、研修に関わる多くの県職員に、海外に関する関心や素養を高めてもらうことができたと思われる。

２　主な研修の概要

国際課から始まった研修は、総務、財務、税務、市町村行政、総合計画、魅力発信、報道、広報、広聴、県土政策、道路整備、河川整備、都市計画、危機管理、経済政策、企業誘致、観光、医療、福祉、環境政策・保全、男女共同参画、県立病院事業、農林水産業振興、農産物販売促進、水道事業、住宅政策、区画整理事業、市街地整備、教育事業と続き、各部局庁による講義のほか、県内視察、学校訪問、県イベントにも参加してもらった。

千葉市、成田市、鴨川市など市町村の関係課にも協力していただき、基礎自治体の行政や国際政策等を学ぶプログラムを提供していただいた。特に、鴨川市では、同市の国際交流協会関係者による歓迎会やホームステイを通じて、地域の方々と貴重な交流をすることができた。

研修員は国立大学キャリアセンターの職員であり、政治、医療、教育をはじ

めとする幅広い分野に関心を持っていた。研修員の要望に柔軟に対応することを心がけ、当初予定していたプログラムに、国立大学、国会議事堂、県内病院等の視察先を追加した。また、研修期間中に開催された「ちばアクアラインマラソン 2016」や、千葉県の地酒イベント「千葉の酒フェスタ 2016」等千葉県内の各種イベントにも参加した。さらに、外務省、在京コソボ大使館等を訪問し、国レベルの政策・事業等ついて意見交換をした。

研修分野が多岐にわたるにもかかわらず、最後まで研修に取り組んでくれた研修員の努力もさることながら、何人もの講師・引率者の協力なくしては成し得えない研修であり、深く感謝申し上げたい。

鴨川市国際交流協会関係者との交流

3　成果・課題

本事業の実施を通じて、わが国とコソボ共和国の関係が深まったことは事実だと思う。今後、両国の関係がさらに深まることを期待したい。

研修員は、JIAM で日本語研修を受講したが日本語能力が十分ではなかった。そのため、専属の通訳を配置し、研修及び日常生活の意思疎通に不自由がないよう配慮した。また、ボランティアの日本語教師を紹介するなど、引き続き研修員が日本語を学習できる環境づくりを提供した。

研修は、研修員本人の持ち前の明るさと好奇心の強さで概ね順調に進めることができた。研修員は、多分野にわたる充実した内容の研修を受けられることに、感謝を示していた。将来、再び外国から研修員を受入れる際は、引き続ききめ細やかなサポートできるよう工夫していきたい。

研修で学んだ知識やスキルがコソボ共和国のなかでどのように活かされるかは、今後の研修員の活躍にかかっている。異なる生活文化の中で、最後まで諦めず研修に取り組んでくれた研修員に敬意を払いつつ、日本での経験や千葉県で得た行政知識が、研修員の今後のキャリアの中で積極的に活かされることを願っている。

国際課にて

「　豊橋市で学んだこと　」

氏　　名	マイラ　バトゥアン
出　身　国	フィリピン共和国
受入自治体	愛知県豊橋市
研　修　先	豊橋市役所多文化共生・国際課

1　本事業に応募した動機

昨年初めて日本を訪問してから、私は日本に興味を持ち始めました。日本の第一印象は、素晴らしい人々の住む美しい国であるという、良いものでした。これは、最初の訪問での経験に基づき感じたことです。それ以来、私はいつもこの美しい国やそこに住む人々について学び、知ることは価値のあることであると思うようになりました。

多文化共生の分野は、豊橋市に在住するフィリピン人市民について扱うことから、私の興味をさらに惹きつけました。日本の文化とともに、日本に住むフィリピン人市民の状況について学び、学んだことを私の出身市政府に情報共有したいと思いました。これらのことから、本研修があることを知った時、すぐに応募しようと思いました。

2　研修の概要

研修を受ける中で、日本に対する私の印象は間違っていなかったことがわかりました。日本はきれいな環境を保ち、とても優しい人々が住む、素晴らしい国です。このこと以外にも、私は受入れ自治体である豊橋市で、以下のような多文化共生に係る様々な知識を得ることができました。

豊橋市役所での研修活動報告会の様子

1）豊橋市には様々な文化や背景を持つ人々が住んでおり、全ての市民が調和のとれた関係を築くため、市は社会の全ての層に情報が届くよう技術や戦略、事業が必要であるということ。

2）言語の壁や文化の違いを乗り越える必要があり、これらの障害を乗り越えるためには、日本人市民だけでなく、すべての市民にとって有益となる、持続可能かつ明確な事業を実施し、発展させなければならないということ。

３）効果的なコミュニケーションは文化の違いを乗り越える上で、きわめて重要なツールであるということ。

４）豊橋市のフィリピン人は様々な異なる状況下におかれており、彼らは自分たちの家族の生活を維持するため、一生懸命働いているということ。日本での生活を楽しんでいるフィリピン人がいる一方で、フィリピンにいる家族を養うために、苦労をしているフィリピン人がたくさんいるということ。

５）市民のニーズに敏感なコミュニティーを奨励する必要があるということ。なぜなら、コミュニティーは尊敬をはぐくみ、差別を解消させることができるため。

６）豊橋市では、多文化共生の分野だけでなく、ゴミ廃棄のような他分野でも、素晴らしい取り組みがあるということ。

・ゴミの分別
・ゴミの収集スケジュール
・ゴミに関する規則をきちんと守っていること

３　帰国後の展望

１）出身市政府に、適応可能な範囲で、豊橋市の素晴らしい取り組み（多文化共生分野とゴミの分別）について情報を提供したいと思います。

２）私の所属する部局は、様々な背景やバラエティーに富んだ文化を持つ人々に対応するため、豊橋市で学んだ、効率的で効果的なサービスの提供や様々な文化背景を持つ人々に対応する際の優しさや尊敬の念、プロとしての意識を保持し続けていきたいと思っています。

３）豊橋市では、各国籍の市民が理解できる言語で効果的に情報の伝達を図ることを学びました。私は出身市に戻ったら、市政情報を対象となる市民に効果的に広め、理解してもらえるように、豊橋で学んだことを同じ所属（私の所属は市の計画や事業についての情報を市民に広めることを担当しています）の他の職員に丁寧に教えたいと思います。

４）この研修で経験したことや豊橋市で学んだ具体的な施策を、出身市でも取り入れられるように市の職員と情報を共有するため、許可が下りれば、出身市役所で研修を行いたいと思います。

「研修員とともに目指す多文化共生社会」

自 治 体 名　愛知県豊橋市
研 修 員 名　マイラ・バトゥアン
出　身　国　フィリピン共和国
研 修 分 野　多文化共生
研 修 期 間　６ヶ月
主な研修先　豊橋市文化市民部多文化共生・国際課

１　背景・目的

豊橋市には、11 月 30 日現在 2,922 人のフィリピン人市民が在住している。長年増加傾向にあったブラジル人市民の人口はリーマンショック後減少傾向にあるが、フィリピン人の人口はここ数年増加傾向にある。

しかしこうした現状がある一方、本市のフィリピン人市民が日々の生活で抱える問題はまだまだ不透明な部分が多く、ブラジル人市民に比べると来庁者数も少ない。この理由の一つとして、市役所のタガログ語によるサービスが十分でないという問題点を挙げることができる。

こうした背景から、本市では今年度はじめてフィリピン共和国より１名行政職員を自治体協力交流研修員として６カ月受入れることとした。市のフィリピン人集住地区の学校や団地を訪問し、フィリピン人市民の皆さんの話を実際に聞くことで、彼らが抱える問題を洗い出し、対応策を共に考えるとともに、本市の多文化共生に係る取組みを研修を通じて学んでもらうことを目的に、フィリピン共和国の中でも、多民族のるつぼと呼ばれている、タルラック州タルラック市の行政職員を受け入れた。

２　事業実施について

（１）研修内容

豊橋市役所では、週に１日、タガログ語の通訳を任用していることから、月曜日には多くのフィリピン人市民が生活相談に市役所を訪れる。こうしたフィリピン人市民の相談を通訳とともに聞いたり、行政文書のタガログ語翻訳補助をしたりしてもらうことで、市役所が市民に対してどのようなサービスを提供し、またフィリピン人市民にとってどのような市政情報が不足しているのかを認識してもらった。

市内中学校で講義をする研修員

また、外国人児童生徒とその保護者に将来について考えてもらう機会を提供する、市主催の Future Lecture というイベントに参加したり、フィリピン人集住地区の小・中学校を訪問し、フィリピン人児童生徒から話を聞く

ことで、フィリピンの子どもたちが日本での生活について何を思い、将来に対してどのような希望や不安を持っているのかを、実際に聞くことができた。

さらに、本市の伝統行事である祇園祭や豊橋まつり、その他市の様々なイベントに、市内フィリピン人協会のメンバーとともに参加することで、本市の文化に触れるとともに、たくさんのフィリピン人市民と出会い、彼らから話を聞くことができた。

豊橋市の現状だけでなく、愛知県内の他市のフィリピン人関連団体を訪問することで、他市のフィリピン人コミュニティの現状と各団体がどのようなサービスを提供しているのかを学ぶことができた。

研修終盤には、研修中に構築した人脈を利用し、市内フィリピン人市民を対象にアンケートを実施。そのアンケート結果を活動報告会にて市職員に発表することで、市への問題提起と職員の意識啓発を図った。

市長とブラジル人研修員とともに

フィリピン人協会と参加した豊橋まつり

3　成果・課題

研修員は、JIAM でも熱心に日本語を勉強し、日々言語を習得するため努力していたが、最後まで言語の面で苦労をしているようであった。今後は、JIAM のフォローアップ研修や豊橋市国際交流協会の日本語教室を利用する等、言語の支援についても検討が必要であると考えている。

６カ月という限られた期間ではあったが、研修員は日々精力的に活動をしてくれた。持ち前の明るさと笑顔で、たくさんのフィリピン人市民とコミュニケーションをとり、その結果を報告書にまとめてくれたおかげで、フィリピン人の特性や政治・歴史・文化といった基本的なことから、市役所にタガログ語の通訳がいることを知らない市民がたくさんいることやフィリピン人市民が日々抱える問題等、私たちはこれまで認知することのできなかった様々な事柄に気付くことができた。

今後、研修員が構築してくれた市内フィリピン人コミュニティーとのつながりを大切にし、今回明らかになったフィリピン人市民の抱える問題等の情報を施策に活かしていきたいと思う。

また、多文化共生分野だけでなく様々な分野における本市の取り組みについても積極的に学んでくれていたことから、ぜひ本市で得た知識を出身市の施策に活かしてほしいと願っている。

２０１６行政研修生研修報告書

氏　　名	李 艷霞
出　身　国	中華人民共和国
受入自治体	滋賀県東近江市
研　修　地	東近江市役所企画課

1　本事業に応募した動機

日本の優秀な教育や日本の文化を勉強したかったからです。

2　研修の概要

(1) 全体研修

5 月 15 日～5 月 18 日､研修生は一緒に江戸博物館と浅草寺を見学しました。5 月 19 日から 6 月 30 日まで、大津の JIAM で日本語を勉強しました。5 月 21 日研修生は京都へ行きました。伏見稲荷神社、清水寺と金閣寺を見学しました。

(2) 日本の文化を学ぶ

ア　友好親善使節団受入の随行

6 月 30 日、東近江市に来て、国際交流協会の歓迎パーティーに参加しました。7 月 6 日から 7 月 11 日まで、カナダからの訪問団と一緒に菜の花館を見学して、農業の資源循環システムを勉強したり、廃油でろうそく作りを体験したり、廃油で作る洗剤の設備を見学しました。その後、図書館を見学して展示スタイルを勉強しました。次に、能登川中学へ行って、英語の授業を見学しました。授業中、ゲームの方式で文法知識を勉強しました。伏見稲荷神社を見学して、233 メートルの頂上まで登りました。永源寺を見学して坐禅の体験もしました。東近江市市花-ムラサキを見て、薬用の価値の講座を勉強して布を染色する体験しました。染色で化学物質を使用しませんでした。ヒトミワイナリーを見学してワインを飲みました。

イ　コミュニティセンターでの交流

中野コミュニティセンターで食育講座を勉強しました。バター、たまねぎと牛肉などでサンドイッチを作りました。新鮮な野菜と果物でジュースを作りました。

御園コミュニティセンターで体操をしました。体操チームは非営利組織で、メンバーはすべてお年寄りです。彼女たちは身体を鍛えていて非常に元気です。そして、お茶の講座を勉強しました。土山茶、朝宮茶、政所茶、

（常徳市の料理を紹介）

北山茶を飲みました。その後、作品を作りました。先生は私が作った作品を表装してプレゼントしてくれました。

八日市コミュニティセンターでサマーフェスタに参加しました。子どもたちがペットボトルのふたで世界地図を作りました。

御園コミュニティセンターの中国サロンで、私の故郷の常徳市の歴史、観光地、文化と料理を紹介しました。そして、みんなと一緒に中国料理を作りました。水餃子、肉のしょう油煮、トマトと卵のスープです。

ウ　さまざまな体験

・国際交流協会員の家に行って泊まり、2 日間日本の家庭で研修をしました。彼女の友達と一緒に彦根港から船に乗って出発し、琵琶湖の竹生島へ行き寺を見学しました。また、彼女の家で折り紙を教えてもらったり、一緒に料理を作りました。例えば花型の寿司などです。おもしろかったです。

・茶道の先生の茶店で、2 日間ボランティアをして日本茶を勉強しました。茶道の知識を教わり体験した後に、私たちは日本の庭園も見学しました。また、かな文字教室では書道も勉強しました。

・東近江市で年に 1 度の防災訓練に参加して、中国語で情報を伝えるコーナーに参加しました。訓練中、みんなは整然としていました。

・一級建築士の事務所を見学しました。設計した家を見学して、日本の家のスタイルを見学しました。最後、一緒に長浜曳山博物館を見学しました。

・外国人のための料理教室に参加して日本の弁当を作ったり、第三回食育講座で、秋のサンマ料理を勉強しました。

・農業を体験しました。農業排水施設を見学しました。

・市役所の職員と一緒に聖徳まつりに参加し、太鼓のパフォーマンスを見学したり、みんなと一緒に盆踊りを踊りました。

（浴衣を着て聖徳まつりに参加）

また、近江商人の発祥の地のパレードに着物を着て参加し、私は女学生を演じました。

(3) 行政研修

ア　幼児園及び小学校での研修

10 月に、わかば幼児園、ひまわり幼児園、八日市幼稚園で教育研修をしました。施設の設備、先生の日常の仕事と子どもたちの活動を見学しました。そして、子どもたちと一緒に遊び、昼ご飯を食べました。幼稚園の 5 歳児と小学 1 年生の交流活動に参加して、地震の防災訓練を体験しました。子どもたちの活動は多種多様で、想像力に富んで、たくさんの作品を作りました。幼児園と幼稚園の研修は、私に深い印象を与えま

した。

その後、市原小学校で 3 日間研修しました。小学校の先生の授業、日常の仕事を見学しました。中国の小学校とは違います。子どもたちは授業後ジョギングをしたり、学校で畑をしています。子どもたちが植えた野菜を収穫しサツマイモで料理を作りました。

能登川南小学校では、一日研修をしました。六年生のクラスで常徳を紹介しました。常徳の歴史、景色、料理と小学校などです。常徳市の小学校のイベントは日本の小学校と違います。

（ひまわり幼児園の皆さんと）

発達支援センターを見学しました。このセンターは心理疾病の子どもを補助治療することができます。自閉症と ADHD 傾向の子どもたちの活動を見学しました。先生たちが子どもを助けると、明るく活発になり、注意力を高めます。活動訓練を通じて、子どもの心理はこんな過程になります。「挑戦―成功―自信―もっと挑戦したい欲求を持つ。」このセンターは大切な意義があります。

イ　東京研修

東京で 2 日間研修をしました。ハトバスに乗って、日比谷公園、霞ヶ関、東京タワーなどを見学しました。東京の建築物と様々な大橋を見ました。景色がとても壮観です。そして、私たちは東京中央卸売市場築地市場に着きました。ここにはたくさんの観光客がいました、その中にはたくさんの外国人が含まれています。海鮮を売っている店がたくさんありました。

3　帰国後の展望

私の学校で一番いい専門は、幼児教育と小学校教育学科です。幼児園、幼稚園と小学校との研修を通じて、私の同僚に研修の内容を教えます。学校に自分の優秀な幼稚園を創建する準備をします。

日本の文化と中国の古代文化はたくさん似ていますが、日本では真剣に日本文化の保護し伝承しています。感心させられます。私の同僚、学生、友達に研修の内容を教えます。

私は日本の文化を学んだまとめは「謙虚、礼儀、真面目、勤勉、自律、誠実、尊重、富んだ創造力」です。

「自治体職員協力交流事業研修員を受入れて」

自 治 体 名　　滋賀県東近江市
研 修 員 名　　李　艷霞
出　身　国　　中華人民共和国
研 修 分 野　　一般行政
研 修 期 間　　６箇月
主な研修先　　幼児園

１　背景・目的

本市は、中国湖南省常徳市と平成６年（旧八日市市と締結）に友好都市として提携締結し、友好親善使節団を派遣するなどの交流を行っています。締結後の翌年から両市の相互理解と友好関係の増進に貢献する人材を育成することを目的に職員の研修交流を開始しました。今年で２０人目の研修生として常徳市から受入れ、本事業の活用は４人目となります。

２　研修の概要

６月末から９月末までの前期は東近江国際交流協会において日本語教室への参加や日本文化の研修を行いました。１０月から１１月末までの後期は、主に行政研修として、県・市内の施設の見学や体験を行う中で、幅広く行政の仕組みを学び、自己の職務でもある幼児教育施設及び小学校では、子どもたちと直接ふれあい研修を行いました。

研修期間中を通して市民との交流を深めるため、市の諸行事や民間団体のイベントにも積極的に参加しましました。また、コミュニティセンターや小学校で友好都市の常徳市を知ってもらうための紹介を行うなど交流の懸け橋としての役割を果たしました。

３　研修実施に当たって工夫、苦労したこと

李研修生は、当初日本語の会話が少し不十分であったため、行政研修を行うまでに、ボランティアによる日本語教室への参加や個別レッスンを受講するなど日本語会話のレベル向上に努めました。

また、日本の生活環境や習慣に慣れることを重点目標とし、東近江国際交流協会が中心となって、茶道、書道の体験や料理教室への参加、協会員の家でホームステイを受入るなど市民との交流を積極的に行いました。

企画課の朝礼には一日のスケジュールを発表し、毎日の研修内容を日報をつけることで語学力の向上を図りました。職場では、筆談や文章で理解してもらう工夫をしながらできる限り会話を増やすことを心掛けました。

後半の行政研修では、過去の研修生の研修実績や、本人の研修希望先を参考にしながら、幼児教育施設及び小学校での受入を依頼しましたが、本人の

研修意欲に語学能力が伴わないこともあり、もどかしさを感じることもあったようです。本市は特定分野の研修ではなく、一般行政として受入れているため研修先の選択が難しい面もありました。

全体をとおして月毎に研修計画を立て、早い目に本人に伝えることで、事前に準備ができるような工夫をしました。

3　成果・課題

コミュニティセンターの事業の中に、友好都市を知り、学ぶ講座を組み入れてもらうことで、研修生が簡単な中国語、料理を広く市民に紹介する機会があり、友好都市である中国･常徳市を知ってもらうことができました。

また、研修先の小学校でもパワーポイントを使い、両国の小学校の違いを紹介することで研修生の自己研修だけでなく、子どもたちや市民との相互の交流を深めることができました。

コミセンで常徳市を紹介

今年度の研修生は幼児教育の研修が希望であったため、市役所内の一般行政研修の日数が少なかったものの専門分野の研修として多くの成果があったと思います。教材を自費で購入したり、担当から資料をもらうなど帰国後に研修内容をできる限り報告しようとする努力が覗われました。

幼児園の交通教室で紙芝居

研修生は以前来市した研修生と習慣が似ているところもあれば、個々の個性や特性もあり、受入側の担当も粘り強い理解と相互の信頼関係が必要であると感じました。メンタルや生活に配慮しつつ、研修プログラムを立てていくことも大切だと思いました。

友好都市の代表としての研修生であるということをしっかりと認識してもらいながら、お互いがさらに友好関係を深めていける事業でありたい、また今後友好都市の窓口となって活躍されることを期待します。

山口県で出会ったもの

(協力交流研修員研修報告書)

氏　　名　師　冉

出　身　国　中華人民共和国

受入自治体　山口県

研　修　先　山口県立総合医療センター　リハビリテーション科

１　本事業に応募した動機

山東省と山口県が姉妹都市を締結して以来、観光、経済、文化、教育など幅広い分野での交流と協力を推進しています。友好交流の大切な人材を育てるため、山口県と山東省は友好交流の大切な一環として、お互いに人材を派遣しています。私は 2007 年から山東中医薬大学附属病院で勤めてきて、2015 年山東省千仏山病院に転職しました。漢方そして神経内科の業務を担っています。

現在、中国には、脳科の発病率が年々増えているので、患者さんがいろんな障害をもっています。患者さんの生活の質の低下が原因なので、どうすれば生活が向上するかが、今もっとも重視されています。そのような難題を抱いた私は日本のリハビリテーションを知り、日本側の知識と人のつながりをつくるため、2016 年度自治体職員協力交流事業（LGOTP）に応募し、2016 年５月から 11 月までの半年間で、研修員として山口県に派遣され、山口県立総合医療センターで研修を受けさせていただきました。

２　研修の概要

（1）東京の集中研修と JIAM の日本語研修

今年５月 15 日成田空港に到着しました。それから、日本の総務省、東京にある江戸時代の博物館、浅草などを見学したり、日本の国家体制を勉強したり、山口県国際課の担当者と面会したりしました。

５月 19 日、12 か国から 28 人の研修員がチームとして、琵琶湖の畔に位置する滋賀県全国市町村国際文化研修所（JIAM）に移動しました。星クラスのメンバーになって、JIAM で集中日本語研修を受けました。オランダからの Jessica さん、中国からの楊佳さ

ん、秦川さん、王かんさん、宋華さんと６人のクラスで一ヶ月の　楽しく生活をしました。

2017.5 JIAMの研修仲間

日本語能力がアップするように、日本語講義、地方自治行財政講義、日本文化講義、茶道体験、スタディツアー（京都市内、滋賀県内)、防災センター見学など、いろんな勉強をしました。

外国人のグループで協力して、日本語で「健康と寿命」というプロジェクトワークを発表したことを懐かしく思います。

(2) 山口県立総合医療センター（地方自治体）研修

山口県立総合医療センターのリハビリテーション科は、いまから 30 年前に出来ましたが、最初はスタッフが少なく、整形外科を中心としたリハビリをしてきました。

去年、村田和弘先生がこの病院に就職してから、リハビリテーション科はだんだん発展してきています。毎年少しずつスタッフを増員しながら、365 日のリハビリテーション体制を整えてきました。脳血管、心臓、運動器、呼吸器、癌のリハビリテーションを行っています。高齢社会を迎え、入院前は何でも出来ていた患者さんが、数日安静治療を受けるだけで立ったり歩いたりできなくなることをしばしば経験するそうです。脳卒中、腰や脚の骨折、心筋梗塞や心不全、肺炎やがんの術後など重篤な外傷や疾患では尚更のことだそうです。

もっと素晴らしいのは、そんな中で自宅退院や社会復帰が少しでも早まるように、身体的なコンディションだけでなく、精神的にもサポートできるようなチーム医療を目指して、リハビリテーションスタッフだけでなく、多職種と一緒にお手伝いしていきたいと考えていることです。

山口県立総合医療センター
前川院長、村田医師と一緒に

私にとっては、もともとの専門は漢方の内科ですが、日本のリハビリテーション分野は、全く

新しい医学の領域です。そして、病院のリハビリテーション科で、基本的な知識を勉強しながら、村田先生の診察のやり方、PT さんの理学療法、OT さんの作業療法、ST さんの言語嚥下療法及びチーム医療、僻地支援などを学びました。そして、日本の国民健康保険制度について、日本の国民の福祉などを理解しました。そして、日本では、国民の生活が重視されていることに感心しました。

(3) 日本文化、風俗研修

日本の文化に触れるために、専門の研修以外、山口県内の観光名所や夏祭りや花火大会など日本らしい体験をしました。また、週末と祝日を利用して、中国からのメンバーと一緒に鹿児島、大分、沖縄、広島、兵庫など行って、活火山を見たり、縄文杉と出会ったり、日本の風土に感動して、楽しみました。

一方で、日本の人たちは自分の国の誇り文化と風景を守るために、協力して頑張っている様子にも感動しました。

(4) その他の活動及び体験

ちなみに、研修中に日本の漢方の講座やゼミナールに参加したことがあります。日本の西洋医学の先生たちは、皆漢方に興味を持っているそうです。時に病院の先生と漢方薬について交流して、本当に嬉しかったです。

もしチャンスがあれば、中国の漢方をより多くの方に伝えたい、引き続き中日の漢方医学交流に頑張っていきたいと思います。

縄文杉と私

3　帰国後の展望

６ヶ月間の研修で自分の日本語能力がどれほど伸びたのか自分もよく分からないのが今の正直な感じです。研修中、成長したのは日本語の聞き取り、会話能力だけではなく、何か深いものが私の心の中で芽生えてくると考えられています。６ヶ月の研修で学んだノウハウを戻った後、職場に活かしたいと思っております。

帰国後、臨床にはリハビリテーションの技術を導入して、自分の専門漢方と組み合わせて、障害がある患者さんの自立向上、症状の改善のために、活用したいと思っています。また、リハビリテーションの重要性、必要性及び実用性を拡張して、患者さんと高齢者の生活向上になるように力を入れたいと思います。

半年の研修があっという間に過ぎたというのが正直な感想ですが、楽しくて充実な研

修生活を送りました。短い間でしたが、研修生活が私の宝になり、一生の貴重な体験です。自治体国際化協会の方々、山口県国際課と山口県立総合医療センターの方々には、仕事から生活までのいたる面で、心より感謝いたします。研修中に、村田和弘先生に御指導とご援助をいただき、大変お世話になっております。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、研修中で多くの方々と出会い、多くの方と友達になり、これからもその友情を大切したいと思っております。今後、中日国際交流のかけ橋となり、幅広くご活躍をお祈り申し上げます。

山東省からの研修員を引き受けて感じたこと

自治体名　山口県
研修員名　師　冉
出身国　　中華人民共和国
研修分野　医療（リハビリ分野）
研修期間　６ヶ月
主な研修先　山口県立総合医療センター

１　背景・目的

山口県と中国山東省は、1982 年の友好協定締結以来 30 年以上にわたり幅広い分野で交流を深めてきた。

山口県では平成 27 年３月、「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」を策定・公表し、“人材活力の創造”として国際交流を推進している。

この LGOTP 事業においては、平成８年から昨年までの 21 年間にわたり計 25 名の研修生を受け入れてきた。中でも直近 10 年間では、山口県立総合医療センターでの研修生の受け入れが４年（４名）あり、研修内容は「臨床検査、看護・マネジメント」といった多岐にわたっている。

当該センターでは、一昨年から「365 日リハビリテーション（土日・祭日も原則リハビリを行うこと)」を実施しており、機能低下しやすい高齢者、重篤患者にとって急性期からリハビリを開始すること、そして、それを連続することで、脳神経、循環器、内分泌、運動器など全身的にも従来では考えられない効果を認めている。

今回、師冉研修員の専門は「東洋医学（漢方)」とのことで、漢方における神経、循環器、内分泌系の効果は、リハビリで得られる効果と比較して、重複することが多く認められる。

医療全体の国際化やネットワーク化が加速的に進展する中、リハビリの領域においても国際交流を深め、人的交流・ネットワークを形成し、情報交換を通じた相互の理解や意識啓発に資すると判断し、師冉研修員の受け入れを決めた。

２　研修の実施にあたっての工夫など

中国にはリハビリテーションを専門職とするメディカルスタッフがいないということであり、帰国後に、実際に自分でリハビリテーションを少しずつでも実践してもらえるように、日本のリハビリテーション全般の流れがつかめるように心がけた。

当院のリハビリテーションは、整形外科以外の各科からリハビリテーションを依頼され、リハビリテーション科医が診察後、リハビリテーション処方し、メディカルスタッフによるリハビリテーションが開始される。（整形外科医は自ら依頼と処方を行っている。）

そこで、ベッドサイドでのリハビリテーション診察を一緒に行い、セラピストが実施する実際のリハビリ場面を見学してもらうこととした。

リハビリテーション診察は、ベッドサイドで行っているので、可能な範囲で臥位から立位までの動作確認を行った。

脳卒中による機能障害と内科や外科疾患治療による廃用性の変化や認知面の低下による動作の違いなどについて説明するようにした。徐々に動作に慣れてくると、積極的に介

助できるようになり、再診の際は、患者のリハビリテーションを実際に見ているので、状況を教えてもらうことも多くなった。

もう少し、病態や動作上の問題点など詳細に説明できると良かったが、なかなかニュアンスを伝えるのは難しく、お互いに突っ込んだディスカッションが最後までできなかったことが残念であった。

さらに、リハビリテーションで重要なのは多職種連携であることから、心臓リハビリテーション、神経内科、脳外科、整形外科とのカンファレンスやリハビリテーション科内部でのカンファレンスにも参加してもらった。

【研修風景】

ラウンド（回診）は動作が確認でき、実際に患者さんをみながら診察するので、比較的理解しやすそうであったが、カンファレンス（スタッフ会議）は専門用語の羅列で、進行も早く、聞き取るのが精一杯の様子だった。フォローもなかなか難しく、最後まで分かりにくそうであったのは申し訳なく感じた。

また、院外研修として、10 月の 29、30 日に金沢で行われた日本リハビリテーション医学会専門医会学術集会に参加し、興味ある教育講演やシンポジウムを選択して受講してもらったが、日常会話と異なり、講演の日本語は聞き取り難く、専らスライドで理解したとのことであった。道中の車窓から、来日当初に１ヶ月間、日本語を集中トレーニングした琵琶湖のほとりにある全国市町村国際文化研究所（JIAM）を「懐かしい、懐かしい」と写真撮影していた姿が印象的だった。

３　成果・課題

リハビリテーション科医の業務はデスクワークが多く、師さんの満足できる研修であったかどうかは分からないが、実際のリハビリテーション場面に立ち会ってくれたセラピスト、師さんと同じ神経内科医ということで、診療場面を見せていただいた神経内科の先生方、山口県という地域を紹介してくれたへき地医療支援部のスタッフの皆さんなど、多くの方に協力して研修を実施できたことに深謝したい。

師さんが当院のリハビリテーションに関連した医療に触れ、習得した内容を少しでも今後の業務を行う上での参考にしてもらえれば幸いである。

協力交流研修員研修報告書

「高知市の発展と、市民対応のし方」

Bagaimana Kota Kochi Membangun dan Melayani Warganya

氏　　名　　ガンディ・ウィジャヤ・チャハヨ・プラジャント
出 身 国　　インドネシア・スラバヤ市
受入自治体　　高知県高知市役所
研 修 先　　高知市役所

1. 本事業に応募した動機

はじめて自治体交流研修プログラムにオファーをもらった時に、正直嬉しい気持ちと不安な気持ちが半分ずつありました。外国に住むのは私にとってはじめての経験になるので正直不安でした。でも、日本に対しての興味のおかげでその不安を乗り越えました。私はよく日本のことをインターネットで読みました。日本は大きい国になったにもかかわらず、文化や伝統の価値観を忘れずに、発展している国です。それを自分の目で確かめたいと思いました。また、たくさんのことを学び、学んだ知識を周りに普及したいと思います。またスラバヤ市が市民にとってもっと住みやすい町になるように、この経験がスラバヤ市の職員のインスピレーションとなって欲しいと思います。

2. 研修の概要

平成 28 年 LGOTP での全体研修は以下の通りです。

① 総務省により Local Government Training Program in Japan 2016（平成 28 年度自治体職員協力交流事業）についてのオリエンテーションが 5 月 16 日から 18 日まで行われました。そこで、私は日本の行政の概要を教えていただき、地方自治体のことと国の関係も教えていただきました。また、日本語の試験も受けました。

② 5 月 19 日から 6 月 16 日まで滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所（JIAM）で日本語の研修をしました。約 1 ヶ月間、日本語を勉強しました。日本の地方自治制度と行政の講義も受けました。また、有名なお茶の先生に茶道を教えていただきました。

③ 6 月 22 日から 9 月 22 日まで外国語学校、ハロースクールで日本語の研修を受けました。この講座は国際平和係で研修しながら行われました。

④ 高知市の行政研修は 6 月 17 日～11 月 11 日において行われました。研修の内容は主に私が学びたい分野を中心に行われました。特に市民に対してのサービスです。

例えば：

a. 学校教育課

義務教育は９年の小学校と中学校で、その間の学費は全て市の負担になります。この義務教育の最大の目的は子どもの「個性・性格・精神衛生」また「社会」を作り、発達させることです。その目的を達成するためには教育課程に道徳の授業を入れます。それでも、最大の子どもの教育の責任は親にあります。親をサポートするために学校では子どもを教育するためのノウハウをカウンセリングという形で教えています。また、時には学校の担任の先生が自宅訪問もします。

教室での学習の中にも、学生はただ教育を受けることだけでなく、もっと積極的に自分の意見を口頭でも筆記でも述べるための勇気を育むように練習をします。教育学期は３つに分かれ、ひとつの期間で４ヶ月間かかり、期間の最後には学生の評価を計り、その結果に対して保護者と相談します。ただし、この評価はけして、学生の卒業や次の学年へのレベルのステップアップのためではありません。義務教育の期間には、みんな共に卒業し次の学年になります。

b. 土佐山学舎

土佐山学舎は土佐山地域にある小・中学校のことです。土佐山に住んでいる子どもが少ないため、学校は土佐山の外に住んでいる子どもにも、許可があれば土佐山学舎で学べるようにしました。たくさんの保護者が土佐山学舎に自分の子どもを預けたい理由は以下となります。

【2016 年 10 月 3 日　土佐山学舎】

- 他の学校よりも早く、小２から勉強する英語の授業があります。
- 学年の分け方が少し独特で、普通小学校は１～６年生、また中学校は１～３年生（小学校から数えれば７～９年生）ですが、本学舎では 1～4 年生・5～7 年生・最後に 8～9 年生に分かれています。これは中学校の授業は小学校に比べて難しすぎると考え、以上の制度に辿り着きました。
- 学校の教育の他に、子どもは学校の周りの自然や地域の市民と関わりが多いです。また、市民も学校を応援し、学校のイベントなどに協力しています。
- 学校の設備は市内の学校に負けず、むしろもっとたくさんあります。
- 学生を送り迎えするためには、高知市のいくつかのエリアに無料のスクールバスを用意しています。

学校の設備によって、子どもはもっといい個性・性格に育つように期待し、周りの社会にも繋げられるように期待しています。

c. 中央窓口センター

【2016 年 10 月 4 日　中央窓口センター】

政府機関の中で中央窓口センターは市民にとって自分の個人書類を得るためのところで、一番必要とされている場所だと思います。ここでは、出生届・婚姻届・離婚届・死亡届などの手続きができます。また、転入届・転出届・印鑑登録・年金の手続きもできます。統一するシステムで、ある人が中央窓口センターで登録されたら、医療保険・税金・年金などのような必要とされているデータだけ、市役所の全部署が見ることができます。

【2016 年 10 月 6 日　朝倉窓口センター】

現在、政府はマイナンバーというプログラムを行っています。マイナンバーは 12 桁の市民の身分証明となる番号です。また、他のカードはこの 1 枚のカードに変わり、全てが統一される予定です。これらの目的は政府の効率化・公平また公正な社会の実現・市民の利便性を高めるためです。

基本的に市民としての生活方法がもう既によくできているため、市民は政府の住民登録などのルールを守ります。政府は市民のためにサービスを行うのに、あまり問題にならず、市民は自分の責任を理解し、分からない時は知ろうとしているからです。

d. 高知市卸売市場

高知市の卸売市場は 1930 年に開設され、全国で京都の次に古い市場です。高知市卸売市場は高知市役所に管理され、魚・野菜・果物の取引場所となります。この高知市卸売市場は 3 つの機能があります。生鮮食料を集荷すること、その食料の価格を決めること、食料を分配することが高知市卸売市場の機能です。

生鮮食料を集荷するために、高知市卸売市場は悪天候で遅れて配送する船や飛行機に対応して、24 時間営業しています。値段を決めるには、二つの方法があります。それはせり、そして卸売業者と他の業者の間の取引です。また、水曜日・日曜日・祝日・特別な休日以外毎日 04：00～15：00 に取引が行われています。

高知市卸売市場は生産者・卸売業者・配給業者・政府にとって利便性の高い場所です。卸売業者は高知市卸売市場での取引は商品の価格が正確に決められると保障されると信じています。また、高知市卸売市場には配給業者が多く集まるため、自分の商品が売れるチャンスが

高いと信じます。その保障とチャンスは生産者を安心させ、商品の品質と量を高めるためだけに集中できます。配給業者にとって高知市卸売市場は多種多様な生鮮商品が集まる場所なので、とても便利なところです。それで、市民の安全な生活が保護できます。

e. 環境業務課・清掃工場

【2016年10月11日　環境業務課･清掃工場】

ゴミに関しては、日本の国民や政府のゴミの管理方法はかなり優れています。ゴミはいくつかに分別して、出す日と出し方も決められています。ゴミは好きな場所に捨てず、ポリ袋に入れ、指定されたゴミの収集場所に出さなければなりません。

ゴミステーションからゴミを収集することが環境業務課の義務の一つです。毎日、70～80台のトラックに3人ずつ職員が乗り、それぞれのルートに行き、ごみ収集をします。ゴミを収集したら、トラックは清掃工場に向かいます。ゴミは約10.600 m^3保管できる大きなピットに入れます。

【ごみ収集体験】

また､燃えるゴミは焼却炉で燃やします。焼却されたゴミから､灰と熱ができ､その灰はセメントの原料として売られています。また、発生する熱は発電に利用し、施設の電気の需要に対応します｡余った電力は売却します｡清掃工場のピットに捨てられない他のゴミ類のうち､ペットボトルはリサイクルして処理します｡焼却もリサイクルもできないゴミは埋めます。

f. 健康福祉部

基本的に、日本の市民の健康状態はとても良好です。世界で一番長寿の日本がその証拠です。もちろん生き方や食生活は大きな理由ですが、市民の健康や福祉に対する支援や手当、啓発活動などのサービスをする健康福祉部の影響もあるでしょう。

最近の啓発活動は市民の病気の原因となるタバコ・お酒・早食いを中心に行われています。この活動は無料健康診断や健康相談、自宅・個人啓発、また市民に情報を提供することによって行われています。また、外部の協力で、いろいろな健康プログラムを行い、景品の準備は外部に任せる方法も取ります。

市民に提供する健康支援として、主に高齢者や障がい者に対する食料・車椅子・散髪・家のバリアフリー工事などの支援があります。市が用意する支援も様々あります。例えば 0～1 歳の子どもの手当、小学校6年生までの子どもの健康手当、障がい者・ひとり親の家庭の手

当、一人暮らし・家族と暮らす高齢者の手当など、たくさんの種類の支援があります。

g. 市民図書館

【2016 年 10 月 14 日　市民図書館】

高知市民図書館は本館 1 と分館 6 また分室 15 があります。また県立図書館とＮＰＯ法人図書館、個人図書館、大学図書館などもあります。また、移動図書館も月に 1 回 67 ステーションを回ります。そのステーションは幼稚園・保育園・図書館から遠い学校・公民館などです。図書館ではデイジーや点字図書、音訳読書サービスなど視力障がい者のために別室を用意しています。

高知市民図書館は特別なターゲットなどはありません。なぜなら、図書館には様々な種類の本・全世代向けの本・様々な文学が揃っているからです。しかし、やはり来客は主に高齢者の方です。また、図書館にとって課題になっているのは、来館率の低さと、本の貸出率の低さです。データによると来館率は上がってきていますが、それはまだ少ないと思われています。

2015 年の来館数は 1 日 1648 人で、市民図書館利用カードを持っている方は市民の人口のうち 16.2％しかいません。それで、１人の本の貸出率の平均は１年 5.2％となります。現在、市民図書館はＳＮＳや展示会、イベントなどを使って若者が来館するように頑張っています。

3. 帰国後の展望

帰国したらやることはもちろんもっと詳しいレポートを作成することです。また、高知市で学んだものをもしスラバヤ市でも活用できるのなら、是非お勧めしたいと思います。その勧め、特に教育や環境（ゴミの管理）の分野を上の方々に検討してほしいです。また、担当事務別に直接関係する部署に職員を派遣し、もっと詳しく徹底的に勉強に行ったほうがいいと思います。

【2016年7月12日　よさこい鳴子踊りの練習】

平成 28 年度自治体職員協力交流事業報告書

～　自治体職員協力交流研修員の受け入れについて　～

受入自治体：　高知市
研修員氏名：　GANDHI WIJAYA CAHYO PRAJANTO
（ガンディ・ウィジャヤ・チャハヨ・プラジャント）
派遣元自治体：インドネシア共和国　スラバヤ市役所
研修分野　：　一般行政
研修期間　：　6 カ月
主な研修部署：高知市総務課他

１．背景・目的

本市では，平成 9 年にインドネシア・スラバヤ市と姉妹都市提携を行い，以降，文化・教育・経済等さまざまな分野で交流を続けている。

平成 10 年度から毎年一般財団法人　自治体国際化協会の「自治体職員協力交流事業（LGOTP）を活用し，姉妹・友好都市提携を結んでいる海外の自治体から交流の一環として研修員の受け入れを行っている。

今年度は,19 人目となる研修員をスラバヤ市から受け入れ行政研修を行った。

２．研修概要

本市に配属になった 6 月下旬から，9 月上旬にかけて，民間日本語学校での計 140 時間の日本語研修を中心に行った。その間には，高知市の夏の一大イベントである「よさこい鳴子踊り」に高知市役所踊り子隊の一員として参加した。また，小学生とともに稲刈り体験を行うなど地域住民との交流を深めた。

10 月からの一般行政研修では研修員の意向を踏まえ,住民登録等の窓口業務や環境業務，健康・教育の制度等について重点的に研修計画を策定した。スラバヤ市では研修員が住民登録の業務に携わっており，市民対応や市民生活に関する質問が多かったが，当市での担当部署が業務内容ごとに多岐に分かれている点や，日本における制度・仕組についての説明から始める必要があった点などから，研修日程の順番や時間配分など，担当部署との調整に一定苦慮した。また，研修では専門用語が多く使用されるため，国際交流員による通訳が欠かせない点も日程調整に影響を及ぼした。研修員には机上の説明だけでなく，現場での体験を多く設定したことから，本市職員への理解と友好関係を築く機会とすることができた。

３．研修実施にあたっての工夫・苦労したこと

研修員に日本の言語や生活習慣を習得させるため，専門研修開始から 3 カ月間市内の民間日本語学校に通学させた他，インドネシアの国際交流員の協力のもと生活や健康面での日常的なケアに努めた。

また，約 5 カ月間の当市での研修期間中に，地域行事等で研修員がより多くの市民と交流が図れるようつとめた。

４．成果・課題

本事業の目的である当市の行政実務のノウハウを研修員に習得してもらい，スラバヤ市の次代を担う人材の育成に貢献することができた。また，派遣元自治体との人的交流を深め当市の国際化につなげることができた。

今後の研修実施における課題としては，当市からのノウハウの習得だけでなく，研修員からスラバヤ市の行政の現状を把握し，相互の情報・知識の共有により両市の業務の効率向上等に活かせればと考えている。

帰国後は，研修員に当市での研修の成果や経験を生かして，スラバヤ市の課題に取り組んでいただきたい。また，自治体間の国際交流の貴重な架け橋として活躍してほしいと考えている。

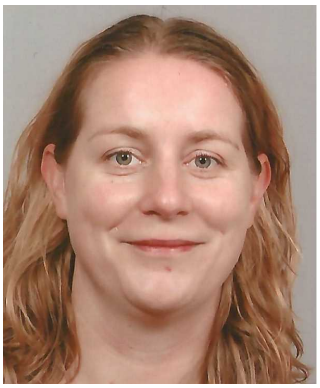
そして，今後も本事業を通じた研修員と市民・職員のつながりを継続し，両市の友好関係がさらに発展していくことを期待している。

日程	研修内容
6 月	語学研修:日本語研修 地域行事等に参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	一般行政研修研修先 総務課・中央窓口センター・朝倉窓口センター・学校教育課・土佐山学舎・市民図書館・健康増進課・介護保険課・高齢者支援課・障がい福祉課・子育て給付課・環境業務課・清掃工場・卸売市場

一般行政研修（ごみ収集体験）

地域行事への参加

「2016 年ＬＧＯＴＰ報告書」



氏　　名 (Name)	ジェシカ・ヒルホースト
出　身　国 (Country)	オランダ
受入自治体 (Host Institution)	長崎市
研　修　先 (Training Institution)	長崎市

１　本事業に応募した動機
(Reasons for applying for this program)

長崎市とライデン市は 2013 年 2 月から市民友好都市提携を結んでおり、関係強化のため、長崎市の方からライデン市から職員を派遣できないか打診があったので応募することとした。

２　研修の概要

経済、文化、観光全般に関する取り組みを行った。

長崎市とライデン市にはシーボルトと出島という強い歴史文化的つながりがある。この既存のつながり以外の分野で今後協力しあえないか、また、互いに学びあえることはないかを探ることを目的として研修に取り組んだ。

＜学校での講座＞

３　帰国後の展望
(Plans upon returning to your home country)

（本事業で得た成果を帰国後どのように活かしたいか）

研修では、市役所内の複数の部署から、また、関係団体からそれぞれが所管する事項の全般的な内容を紹介してもらった。その内容を研修中にレポートにまとめたので、ライデン市の関係部門に情報を共有し、今後どのようなことができるかを示したいと思う。

今後取り組めたらよいと思っていることは次のとおりである。

- 長崎大学とライデン大学の間では定期的に学生が行き来しているので、このつながりを使って友好関係を今後さらに強めたい。具体的にできることとしては、インターンシップの機会を創出したり、学生にプロジェクトを割り当てたり、温かく学生を迎えることかと思う。このようにして学生に両都市の

大使になってもらいたいと思う。

- 実質のある市民友好都市関係を築くためには、両都市がもつネットワークを活性化することが必要である。今後も LGOTP にライデンから研修生が参加することはこの点で意義のあることである。また、長崎市の職員をライデン市に迎えることができないかも探ってみたいと思う。恐らく、交流に最も関係する部署は、文化観光部国際課であると思う。

＜神戸市役所との協議（県外研修）＞

- 両都市は既に戦略的に重要な機関とのつながりをたくさん行っている。
  例えば、両都市の大学、大学医学部、博物館、日蘭協会などの間でつながりをもっている。この良好な関係を保つことは重要であるし、こうした機関がいつでも支援が必要とするときはそれを与える必要があると思う。もしかしたら、両都市のシーボルトコレクションと歴史を組み合わせたプロモーションをどのようにできるかを検証することは面白いことかもしれない。

＜国際シーボルトコレクション会議＞

互いに現在行っている事業、例えば、駅周辺の再開発、新市庁舎の建設、高齢化社会などの社会問題などから学びあうということも興味深いことかもしれない。

本事業と長崎市に 6 か月長崎に滞在する機会を与えてくださったことに感謝したいと思う。両市の関係強化に本当に役に立つものだったと思っている。

「長崎市とライデン市の交流促進」

自 治 体 名　長崎市
研 修 員 名　ヒルホースト　ジェシカ（Hilhorst Jessica）
出　身　国　オランダ
研 修 分 野　経済、国際、文化財、平和、観光
研 修 期 間　６ヶ月
主な研修先　産業雇用政策課、出島復元整備室、他

１　背景・目的

長崎市は市の最上位計画である第四次総合計画において「個性輝く世界都市」を将来の都市像として掲げ、「世界とつながるまち」となるような施策展開を行っている。長崎市は世界の６都市と姉妹（友好）都市提携を結んでいるほか、近年では姉妹都市提携等の形式にとらわれず、市民や民間交流団体が主体となって自由、気軽な交流を行う市民友好都市の提携を推進しており、これまで４都市と提携している。「世界とつながるまち」を実現するため姉妹（友好）都市や市民友好都市とのネットワーク形成に取り組んでいる。

そこで、平成 25 年度からは姉妹都市等から研修員を招聘し、研修員が今後の長崎市との関係において「交流のキーパーソン」となることを目的としてこの事業を行っており、平成 28 年度は、平成 24 年度の市民友好都市提携以来交流が活発になったライデン市（オランダ）から、友好交流を深めるとともに新たなつながりを作ることを見据えて研修員を招聘した。

２　研修内容

研修員はオランダ・ライデン市の都市開発部に勤務しているため、主に経済分野での研修を実施した。この研修では、行政内の研修だけではなく民間企業との協議なども行った。

また、オランダとの関わりが深い出島で今年度は新たに 6 棟の復元が完了することから、セレモニー開催までのオランダとの連絡調整などに携わってもらった。

＜出島６棟復元セレモニー＞

このほか、文化財や大学など様々な分野での研修を行った。また、長崎市独自の研修として、平和研修を行った。これは、平和関連施設の視察や被爆体験者講話を聴くなどの学習に加え、実際の平和祈念式典への参列など実地的な研修も取り入れるようにした。

その他、クルーズ船の受入時の対応や水産農林分野での研修などを行った。

３　事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

研修員は日本語が堪能で、高いコミュニケーション能力を持っていたことに加え、ライデン市と長崎市との新たなつながりを作ることに対して高い意識を持っていたため、様々な所属等での研修にも意欲的に臨んでいた。研修員の高い意欲に応えるべく、それぞれの分野の研修を充実したものにしようと、座学だけではなく、実地研修や民間企業との協議などを通して、多方面から市の取組みを学んでもらえるよう工夫をした。新たなつながりを作り広げていくために、研修中に出来たネットワークを維持するため、研修員の帰国後も定期的に連絡を取り合うようにしていくこととした。

また、研修員は日本への留学経験や来日経験も豊富であったが、昼食や夕食などのリラックスした時間に、世間話として些細なことでも困ったことがないかを聞いたり、素朴な疑問を話し合ったりして、充実した研修生活を送ってもらえるように努めた。

４　成果・課題

研修員を受け入れた成果は多くある。そのひとつは、長崎市とライデン市との交流の新たなつながりのきっかけが出来たことである。長崎市とライデン市はシーボルトにかかる歴史的なつながりから市民友好都市を締結したこともあり、歴史や文化においての結びつきが大きかったが、文化財や経済分野、大学などでの研修を通して、新たな交流のためのネットワークの土台を作ることが出来た。

今年度は出島での新たな復元棟 6 棟の完成セレモニーや国際シーボルトコレクション会議など、オランダ関連の催しがあったが、研修員には、オランダ側との連絡調整などの役割を担ってもらい、大いに力を発揮してもらったことから、両催しとも無事スムーズに終了することが出来た。

＜学校での講座＞

また、研修員には市民、特に子どもたちとの交流を通して、よりオランダを身近に感じてもらえるように、小中学校でオランダ紹介の講座をしてもらったが、分かりやすい説明や持ち前のコミュニケーション能力によって子どもたちに楽しみながらオランダへの理解を深めてもらうことが出来た。

今回の研修員受入は、両市がより身近な存在になるとともに、新たな交流を行うためのきっかけとなった。研修員には長崎市とライデン市をつなぐキーパーソンになってもらうとともに、長崎市としても積極的に交流を行っていきたい。